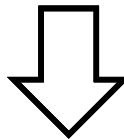


区分	工種	項目	規格値 単位明示がないのは(mm)	測定基準		
20 落石 予防 工	ロープネット工 (ロープ掛工)	施工中確認	土被り厚 (掘削機の残長等で確認)(土砂部用アンカーに適用)	CCM協会の表土厚規定値内	1工区当たり 5%又は最小本数3本以上	
			削孔長 (岩部用アンカーに適用)	定着長以上 (CCM協会の規定値以上)	1工区当たり 5%又は最小本数3本以上	
			当適用・土砂部アンカーに先に用	アンカー打込角度	平均斜面勾配に対して90°を基本とし、上向き15度、下向き40度以内	1工区当たり 5%又は最小本数3本以上
				アンカー残尺長・根入長(定着長)	設計定着長を満たしている残尺長(CCM協会の規定値以上)	アンカー打込角度に合わせて確認。1工区当たり 5%又は最小本数3本以上
	施工後確認	施工管理基準	縦横主ロープ間隔	管理基準軸 2.0±0.2(m)を基本とし、スパン長が長くなる場合は、監督員と協議の上定める。 管理基準軸外 2.0+0.5(m)以内	縦横主ロープを、1施工箇所当たり最低縦2本横1本を測定する。	
			出来形管理基準	縦横主ロープ間隔	2.0+0.5(m)以内	縦横主ロープの位置で、最低縦2本横1本を測定する。主ロープ間隔が、施工規格値を超える場合は、アンカー及びロープを増設し規格値内の施工が行われているか確認する。
				縦横補助ロープ間隔	2.0+0.5(m)以内	主ロープの間隔に準じて、均等に割り付けられているか確認
		使用した場合	金網重ね合わせ幅	-50以上	施工箇所1箇所以上測定する。	
			金網縦・横延長	-500以上	変化点毎に測定する。	

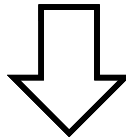


改正後

区分	工種	項目	規格値 単位明示がないのは(mm)	測定基準		
20 落石 予防 工	ロープネット工 (ロープ掛工)	施工中確認	土被り厚 (掘削機の残長等で確認)(土砂部用アンカーに適用)	CCM協会の表土厚規定値内	1工区当たり 5%又は最小本数3本以上	
			削孔長 (岩部用アンカーに適用)	定着長以上 (CCM協会の規定値以上)	1工区当たり 5%又は最小本数3本以上	
			当適用・土砂部アンカーに先に用	アンカー打込角度	平均斜面勾配に対して90°を基本とし、上向き15度、下向き40度以内	1工区当たり 5%又は最小本数3本以上
				アンカー残尺長・根入長(定着長)	設計定着長を満たしている残尺長(CCM協会の規定値以上)	アンカー打込角度に合わせて確認。1工区当たり 5%又は最小本数3本以上
	施工後確認	施工管理基準	縦横主ロープ間隔	管理基準軸 2.0±0.2(m)を基本とし、スパン長が長くなる場合は、監督員と協議の上定める。 管理基準軸外 2.0+0.5(m)以内	縦横主ロープを、1施工箇所当たり最低縦2本横1本を測定する。	
			出来形管理基準	縦横主ロープ間隔	2.0+0.5(m)以内	縦横主ロープの位置で、最低縦2本横1本を測定する。主ロープ間隔が、施工規格値を超える場合は、アンカー及びロープを増設し規格値内の施工が行われているか確認する。
				縦横補助ロープ間隔	2.0+0.5(m)以内	主ロープの間隔に準じて、均等に割り付けられているか確認
		使用した場合	金網重ね合わせ幅	100以上	施工箇所1箇所以上測定する。	
			金網縦・横延長	-500以上	変化点毎に測定する。	

区分	工種	項目	規格値 単位明示がないのは(mm)	測定基準	記録方法	測定箇所等
23 舗装工	歴青安定 処理路盤工	平坦性	2.4 (標準偏差)以内 2車線のみ	平坦性がアスファルト舗装要綱 により行い車線ごとに実施す る。		
		幅  厚 さ	片側-25以内 ただし全幅は設計値以 上	幅は、延長20mごとに1箇所 の割合で測定する。厚さは2,000m <sup>2</sup> 毎に3 箇所の割合でコアを採取して測定 し、測定値の平均が合格判定値の範 囲外に出た場合は、さらに3箇所 (2,000m <sup>2</sup> 以上は4箇所)追加しこ れが合格判定値の範囲内であれば良 い。		
	1車線-9以内 ただし、全体の平均値 -3以内					
	2車線-7以内 ただし、全体の平均値 -2以内					
	平坦性	3mプロファイルメーター により検測 (σ) 2.4mm以下 直読式(足付き) (σ) 1.75mm以下	平坦性は舗装施工便覧 (H18) に よる。		1車線、2車線共に車線ごとに検測する。 ただし、維持工事、災害等の復旧箇所 で小規模なものは、平坦性の項目を省 略することができる。	
	コンクリート 舗装工	幅	-25以内	幅、厚さは、延長20mごとに1箇 所の割合で測定する。厚さは型枠設 置後車線の中心付近で測定する。 2,000m <sup>2</sup> 毎に1箇所の割合でコア を採取する。		
		厚さ	-1以内 ただし、全体の平均値 -3.5以内			
		平坦性	コンクリートの硬化後 3mプロファイルメーター により検測 機械舗設(σ) 2.4mm以下 人力舗設(σ) 3.0mm以下	平坦性は舗装施工便覧 (H18) に よる。		1車線、2車線共に車線ごとに検測する。 ただし、維持工事、災害等の復旧箇所 で小規模なものは、平坦性の項目を省 略することができる。
		目地段差	±2	隣接する各目地に対して、道路 中心線及び端部で測定。		

改正後



区分	工種	項目	規格値 単位明示がないのは(mm)	測定基準	記録方法	測定箇所等
23 舗装工	歴青安定 処理路盤工	平坦性	2.4 (標準偏差)以内 2車線のみ	平坦性がアスファルト舗装要綱 により行い車線ごとに実施す る。		
		幅  厚 さ	片側-25以内 ただし全幅は設計値以 上	幅は、延長20mごとに1箇所 の割合で測定する。厚さは2,000m <sup>2</sup> 毎に3 箇所の割合でコアを採取して測定 し、測定値の平均が合格判定値の範 囲外に出た場合は、さらに3箇所 (2,000m <sup>2</sup> 以上は4箇所)追加しこ れが合格判定値の範囲内であれば良 い。		
	1車線-9以内 ただし、全体の平均値 -3以内					
	2車線-7以内 ただし、全体の平均値 -2以内					
	平坦性	3mプロファイルメーター により検測 (σ) 2.4mm以下 直読式(足付き) (σ) 1.75mm以下	平坦性は舗装施工便覧 (H18) に よる。		1車線、2車線共に車線ごとに検測する。 ただし、維持工事、災害等の復旧箇所 で小規模なものは、平坦性の項目を省 略することができる。	
	コンクリート 舗装工	幅	-25以内	幅、厚さは、延長20mごとに1箇 所の割合で測定する。厚さは型枠設 置後車線の中心付近で測定する。 2,000m <sup>2</sup> 毎に1箇所の割合でコア を採取する。		
		厚さ	-10以内 ただし、全体の平均値 -3.5以内			
		平坦性	コンクリートの硬化後 3mプロファイルメーター により検測 機械舗設(σ) 2.4mm以下 人力舗設(σ) 3.0mm以下	平坦性は舗装施工便覧 (H18) に よる。		1車線、2車線共に車線ごとに検測する。 ただし、維持工事、災害等の復旧箇所 で小規模なものは、平坦性の項目を省 略することができる。
		目地段差	±2	隣接する各目地に対して、道路 中心線及び端部で測定。		